

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の実態やニーズに応じた教育課程の編成・改善に取り組む。 ②学習意欲の向上を目指し、組織的な授業改善に取り組む。	①小集団学習を行うための準備と研究を行う。 ②「主体的・対話的で深い学び」を目指した、組織的な授業改善に取り組み、表現コミュニケーション能力の育成を図る。	①30年度の小集団学習実施に向けて、英語科、学習推進G、学務Gを中心に計画を進める。 ②各教科で「主体的・対話的で深い学び」について研究し、単元において一回は、発表の機会を設ける。	①小集団学習へ向けた準備が整ったか。 ②主体的・対話的で深く学ぶ授業が展開できたか。併せて単元において一回は、発表の機会を設けたか。	①英語科の小集団学習の実施が正式に決定し、準備段階に入った。 ②授業研究形態を変え、外部講師を呼ぶなどして、主体的・対話的で深く学ぶ姿勢を育む授業の展開を検討し実行した。	①英語科以外の教科についても小集団学習の検討をする。 ②今後も授業研究の形態の追及や平常の授業の中での更なる取り組みを進めていくことが必要である。	②深い学びについて教員の意識改革が必要。時代の流れに乗ってほしい。変化に対して、新羽高校は課題に取り組んでいる感があり、生徒の様子からもそれがうかがえる。いかに授業改善と意識改革を行っていくか中学と高校で共有したい。	①英語科において、小集団学習の準備を進めることができた。今後、成果の検証が必要である。 ②各教科で、主体的・対話的で深い学びへの取り組みに向けて授業研究を進めているが、意識改革がより必要である。	①英語科以外の教科についても小集団学習の検討をする。 ②教員側の意識改革へ向けて、中学や大学とも連携を図る。 また、外部講師を活用した授業研究を進めていく。
2 生徒指導・支援 (生徒指導・活動)	①新羽生としての誇りと自覚が持てる生徒を育てる。 ②生徒がルール・マナーを守り、安全かつ安心して学べる学校づくりを進める。	①部活動や三大行事(体育祭・飛翔祭・ウインター・ライヴ)のさらなる充実をはかる。 ②・登下校における自転車と自動車の接触事故や自動二輪車乗車による事故をなくす。 ・生徒一人一人の規範意識の醸成を図る。	①・HP等を活用し、部活動の結果や発表等を積極的に広報することで活性化を図る。 ・行事ごとのテーマを決めたり、準備期間での本部とクラスの意見交換を積極的に行う。 ②・登下校時の学校周辺の危険箇所定期的に職員による立ち番指導を行う。交通安全教室の開催や地域との連携で小学生の安全登校指導を行う。 ・生徒理解に基づくきめ細かい指導を実施し、自ら規律を守る意識を持たせる。	①・部活動が活性化し、部活動加入率が向上したか。 ・開催後の反省会やアンケートの検証をしながら、次年度への申し送り事項が十分に残すことができたか。 ②・交通安全といのちの大切さについて、生徒の指導・啓発活動が実施できたか。 ・問題行動に伴う特別指導件数が減少したか。	①三大行事の一つがTV放送され、生徒に良い影響を与えることができた。 ②・問題行動を繰り返し行なうケースが多く、粘り強く指導はしているものの件数が減少していない。 ・新羽小学校の安全登校指導を行い、啓発活動を行った。 ・横浜北地区の交通安全大会当番校として、演劇部やPTAと協働し、交通安全に対する意識を高めた。	①・今回のTV放送で、将来へと繋がる行事へと発展させていく。 ・部活動は、約50パーセントと、加入率が上昇していない。 ・魅力ある部活動が求められるように改善を進めていく。 ②・登下校時の立ち番指導を継続する。特に苦情が寄せられる場所、時間を把握し喫煙の防止や交通安全指導を行なう。 ・小学生への登校指導を行なった生徒が全校生徒に交通安全への意識を高める啓発活動を行う。	①体育祭・文化祭を見学して5年前より、生徒がよくなっているのを感じる。さらに、高校生には自治活動が必要と考える。 ②交通安全において、小学生を見守ることから、自分たちはどうしなければならぬのか考えてもらいたい。	①校内行事については、生徒の活動が活性化され、TV放送等を通じて認められる場面も増えてきた。一方、部活動加入状況は横ばいが続いている。 ②生徒への指導を繰り返しているが、交通事故件数や生徒指導件数は減少しなかった。	①校内行事のより一層の充実を図るとともに、魅力ある部活動となるよう改善を進め、加入率の上昇に結び付けたい。 ②交通安全指導へ向けて地域住民の協力を得ながらマナー向上を含め、粘り強く取り組んでいく。問題行動減少へ向けて粘り強く生徒と向き合っていく。
3 進路指導・支援	基礎的・汎用的能力の育成を通して確かな進路実現へつなげる。	・生徒自らが進んで進路の情報収集に取り組む、確かな進路実現へつなげるよう支援する。 ・上級学校訪問の内容を充実させる。	・進路ガイダンスの実施を通して、進路情報の提供を行うとともに、基礎的力診断テスト等の振り返り及び活用を通じて支援の補強に努める。 ・上級学校訪問へ向けての事前準備、事後指導等を充実させる。	・ガイダンス・情報提供等の支援が有効に実施されているか。4月時のGTZ(学習到達度)が夏休み明けに上昇しているか。 ・生徒の振り返りを通して進路に対する意識の変化を確認する。	・情報提供や振り返りを通じてGTZや偏差値等を大幅に伸ばす生徒も見受けられた。 ・大学入試等の変化に対する情報提供を行い、徐々にではあるが、難関私大への合格者も出てきた。	・希望する進路実現や進学後も踏まえた学力をつけさせるよう、全職員で取り組む必要がある。	・進路について、指定校推薦等で、早い段階で決めようとする、第一希望でないと、第一希望でないうまくない懸念がある。	・学力を伸ばす生徒や難関校への進学を決める生徒も出ている一方、提供された情報が十分にいきわたらず、安易な進路選択に流れがちで生徒も見受けられる。	・進路実現や進学後も踏まえた学力をつけさせるよう、全職員で取り組む必要がある。また、最新の情報を絶えず提供できるよう努める必要がある。

4	地域等との協働	地域とのつながりを強めるとともに、学校行事等を通じて地域から信頼させる学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が校外活動しやすい環境をつくり、地域との交流を深める。 ・ホームページを充実し、開かれた学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のイベントや小中学校の行事に参加させることによって、地域との親しい関係を向上させるとともに、アンケート等により、生徒の意識の変容をみる。 ・ホームページの内容を充実し更新回数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の地域に対する親しみが深まるとともに、地域の声を取り入れ、満足いく活動ができたか。 ・ホームページが充実し、更新回数が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーン運動、植栽（教育委員会表彰、土曜塾、スポーツ体験教室（神奈川新聞掲載）、新羽地区サマーフェスティバルなど生徒が中心となって、近隣との関係を強化することができた。 ・ホームページ更新回数が増え、情報発信が充実された。結果、志願者増につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜塾は生徒の参加率がやや減っている傾向があるが、全体としては地域との交流は強化されている。今後とも、関係を維持していくことが重要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールにおける学校運営協議会において運営の「責任」が加わることへの不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数の増加や様々な活動が志願者増につながった。来年度より始まるコミュニティスクールを通じてより地域とのつながりを深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールがスムーズにスタートできるよう、地域と一体になって取り組む必要がある。
5	学校管理 学校運営	学校運営の効率化と事故不祥事防止に取り組む。	グループ間、学年間の連携を進め、学校運営の効率化をすすめる、併せて事故不祥事防止に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ横断的、学年横断的な教育課題について情報交換をさらに積極的にすすめる。 ・あらゆる場面で事故防止に関する相互啓発活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ間、学年間での教育課題の共有し、課題の解決及び改善できたか。 ・事故不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討センターを積極的に活用し、教育課題について積極的に検討をすすめる、学校運営の効率化を進めた。 ・あらゆる場面で、事故防止への意識啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の効率化を進めているが、仕事の偏りや多忙化解消にまだまだ課題があり、事故につながりかねない。学校運営の効率化は引き続き進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の多忙化について、新羽中も一緒である。また部活の休養日について、休むのは生徒のためでもあり教員のためでもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の効率化が進んでいるものの、まだまだ課題は多い。部活動のあり方についても課題がある。事故防止へ向けた職員の意識は向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCサーバーの整理を皮切りに、業務の効率化等を進めていく。また、部活動の休養日についても徹底する必要がある。引き続き事故防止へ向けた取り組みは継続する。